

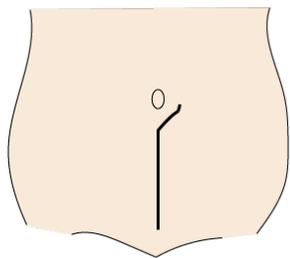
子宮頸がん

【聖路加国際病院ロボット手術センター】

<子宮頸がんの手術方法>

01. 開腹手術

従来の標準的な治療
です



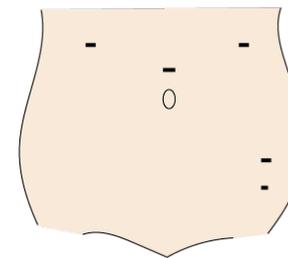
開腹手術での傷

02. 腹腔鏡手術

低侵襲※で傷が小さく
体への負担が少ない
ですが、技術的に難
しい手術です

03. ロボット支援手術

腹腔鏡手術の良さに加え、
傷が小さく痛みが少ない
手術です

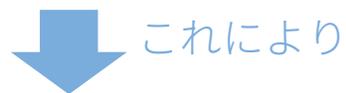


ロボット支援手術での傷

※低侵襲…手術・検査に伴う痛み・出血などをできるだけ少なくすること

<ロボット支援手術のメリット>

ロボット支援手術は、拡大視野により血管や神経が見やすく、
より正確で繊細、かつ安全な手術が可能となります。



メリット 開腹手術に比べ、傷が
01 小さく、痛みや出血が
少ない手術です

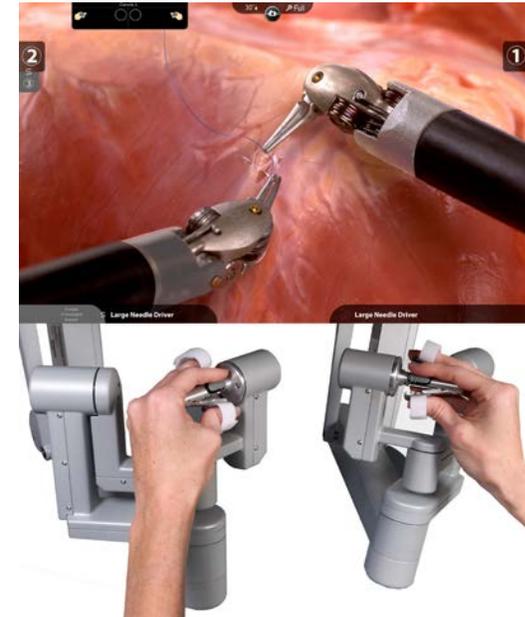
メリット 従来の腹腔鏡手術より
02 も、容易な手術が可能
です

メリット 排尿障害や合併症の発
03 生が少なくなります

※従来の広汎子宮全摘術では、骨盤の深いところにある子宮頸部のまわりの組織を広く切除する必要があります。この部分には尿管や細かな血管、神経があるため、出血が多くなったり排尿障害が起こったりすることがあります。ロボット手術では骨盤の深い部分の血管や神経が見やすく、より安全な手術が可能です。

<ロボット支援手術とは>

腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式です。
高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、
より安全で体への負担が少ない手術を行えます。



<ロボット広汎子宮全摘術の術後経過例>

入院期間：9～14日間

1日目	手術前日	入院	
2日目	手術当日	手術	絶飲食
3日目	手術翌日		歩行、食事再開
～			
7日目	術後5日目		尿の管を抜去
9日～ 14日目	術後7日～ 12日目	退院	

※ロボット準広汎子宮全摘術では入院期間は8日間